

改題

土楽たより

どうらく

Kogure 農場 1月号 (NO45)

2014年1月10日 (金) 発行 (毎月10日)

【農暦】こんな新年のスタートに！

○昨年末に痛風を発症し門松だけをやっとならで飾るだけで新年を迎える事になった。何とも情けないスタートである。3日に痛み止めの薬を飲んで足を引きずりながら近くの紅竜山東海寺の弁財天に初詣をした。6日振りの外出である。因果関係が明確なだけに対策は簡単なのだが、大雑把で、細かい事が嫌い、我慢も嫌い、だらしがないでは始末が悪い。今回で4度目の約2年経っての発症である。今度だけは喉元過ぎればはしない積りでいる。家の中にいるだけの何も出来ないでいる時間は軽い拷問である。痛みの収まらない足に疎ましさが増幅される。門松を外す7日までは治癒してと勝手に思っていたが、既に今日は8日である。赤色は元気が貰えると云うが、庭の万両の実の赤だけがみょうに鮮やかに見えた。唯一の赤だからかもしれない。好きな色でもある。変なものである。

○小さい事や一つのことをじっくりやる事が大事なことだと考えた時の事を思い出した。赤瀬川原平の“老人力”と云う本が話題になった頃の事である。マイナスをプラスにと逆天の発想である。私に足りない事だが、良くも悪くも個性を変えるのは難しい。“一つのことをじっくり”には、憧れはある。だが、性に合っていない事と直ぐに理解した事も併せ思い出された。何もしない日が半月も続くとロクでもない事を考えてしまうものである。

○5日は小寒、寒さが極まる手前の頃の事を云う。大寒(20日)を経て立春(2月4日)までが寒の内だそうである。昨日(7日*)は七草粥の“すずな(蕪)”と“すずしろ(大根)”の二つを頂いた。元気になって、寒さにめげず、やり残しの片付けや剪定野作業から始めたいと思っている。働くことは心身に何よりの良薬になるからである。

*1月7日は; 七草粥の日、五節句の一番目の人日じんじつの節句である。五節句には人日じんじつ1月7日、上巳じょうし(桃) 3月3日、端午5月5日、七夕7月7日、重陽9月9日の五つがある。節句と云えば桃の節句と端午の節句位しか知られていないが、関心がある方は調べて見ると面白いと思う。



＜愛宕神社の火消しポンプ＞

山岳会 OB 仲間と愛宕山のログハウスに泊まり神社に。宮司さんに悪態祭りの事など聞く。23日撮影

<短歌2首>

ままならぬ 痛風の足 ひと苦勞
身なり整え 元日の朝
みそじめ
三十路女が ピンコロ地蔵 手を合わす
次祈る古希 切実足らず

【楽農】収穫作業は終了する！

<ハウス>; <畑A>; <畑B>;

片付け途中まで、黒豆の包装、出荷と剪定作業の少しだけ行った。

【楽市】イベント交流・直売など

○その他(忘年会など);

・元会社のOB忘年会(11日)、エコプロダクト2013(14日)、詩吟の忘年会(17日)、元会社のOB(AE)忘年会(19日)、山岳会OBの忘年山行(21-23日)県政提言集会(24日)等と大小の忘年会が続いた。



<光と水の野菜工場>いばらぎエコ連の「プロダクト2013」の見学会に参加。14日撮影

【つぶやき=Tweet】北斎は幕府の隠密だった！

○痛風で、痛い時は読む気になれなかったが、手持ちぶさたも手伝い本を読み始めた。先月に笠間図書館でリサイクル図書を僅かのカンパで5冊頂いたその中の1冊で、高橋克彦迷宮コレクション「浮世絵博覧会」をである。快適では無かったので読み始めて見たものの中々は読み進めなかった。写楽は誰か、高橋氏の提唱は「秋田蘭画」であったが、他に30人もの説がある。北斎は幕府の隠密だった。小布施にいたのは討幕の志士の監視?のためだった。ゴッホと浮世絵や宮沢賢治との関係など面白く読んだ。西洋の画家に大きな影響を与えた浮世絵の事。そして、写楽が約10カ月の絵画活動で多くの傑作を残し忽然と消えた話や北斎が生涯で93回も引越した話はあまりにも有名である。江戸末期の出来事であり、余り古い話ではないのであるが謎は多い。4日にはテレビで影武者徳川家康を見た。史実は変えず影武者が見事に描かれていた。家康は、大阪の陣で真田幸村に討たれた秘話はあるが、今回のものは関ヶ原で討たれた話である。

○秘密保護法では秘密は守れないと云う話があるが、法制化目的が別なところにあるとしたら恐ろしい。この法は政権や官僚が都合よく国民を管理するために用意したのであれば先号での解説ではないが、制定理由の整合性が取れてしまう。家康が実際はいなくてもいい場合と史実が変わらないのと同じように、制定の表(真の)目的が意味をなさなくも制定したい本音の意図が機能してしまいそうである。漫画やダジャレ風の話に取り上げられてい

るが、怖い話である。浮世絵と影武者家康から同じ例えにはならないが、思わぬ類似点を見てしまった。歴史の¹⁷IFも現代の¹⁷IFも考える事は謎とき以上のものがある。知的？刺激があって興味をそそられる。まだ、歴史になっていない現代の¹⁷IFはこれからの我々に関わることで、生々しい事である。人気のあった？テレビドラマ JIN-仁-は史実と云う制約が見どころだったのかも知れない。時間軸を変えて物事を見ると面白いもの見えてきそうである。想像力は豊かにしたいものである。

○2年前に、大好きだった谷川岳に登るため登山靴を新調し足慣らしにと筑波山に登った。そのあとに痛風を発症し登山を諦めていた経緯がある。三浦雄一郎さんの刺激も少しあったと思うが来年（今年のこと）がラストチャンスと思ひ山仲間に谷川岳の話をしていて、何人か一緒に行ってくれると言ってくれた。その仲間の一人が昨年末の忘年山行時に清酒“谷川岳”をおみやげに持って来てくれた。友の計らいに感謝しているが、笠間に置いたままである。谷川岳は、川端康成の“トンネルを抜けたらそこは雪国であった”の山である。多くの思い出のある素晴らしい山である。清酒“谷川岳”は、しばらくの間はオアズケにしてプリン体OFFの発泡酒で体調管理に努めたい。また昨年末に登った宝篋山などへ足慣らしに行きたいと思っている。

○その前に農業大事の農的生活の大事な実践がある。農作業などいろいろ反省しなければなら事がある。こんな状況でまだ云うかと云われそうだが、反省で人生を小さくはしたくない。一期一会を大事に、これからの人生も前向きには大事にしていきたい。良い意味で頑固爺になれればいいと思う。良い意味は不明だが、。

【後記】。新年の実質のスタートは少し先になりそうです。笠間に、kogure農場にお越し下さい。

【特に編集せずランダムな構成にします】



＜いばらぎ県政提言集会＞OBとして参加。女性フォーラムの提言発表を聴く。24日撮影

発行者；Kogure農場・小暮虎雄

住所；笠間市本戸4201-10

携帯電話；090-9333-4135

メール；torao-k@nifty.ne.jp

HP；<http://homepage3.nifty.com/toragigi/>